

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

湧別で史上最高！

3月17日、湧別町文化センターさざ波において第63回湧別漁業協同組合通常総会が開催され、平成24年度事業計画などの議案13件が原案どおり承認されました。平成23年度の販売実績は、主力の外海ホタテ漁において歩留まりが良く高値で推移したことなどにより前年比36%増の80億6,100万円と過去最高を記録しました。同じく常呂漁業協同組合では前年比10%増の102億4900万円でのうち秋サケ定置は史上2位の記録でした。佐呂間漁業協同組合では前年比6%増の29億4100万円と昭和63年に次ぐ過去2番目の記録でした。



今年も大漁を



3月10日、オホーツク海でのホタテ桁引き漁の今期営漁のため、大漁旗を掲げた操業船が次々と湧別漁港に下架されました。この日は7時前から乗組員が集まり、その吐く息が操業船の回りに白く立ち上がるほどの厳寒の中で手際よく作業を行いました。初漁は同月21日で、15トンの水揚げがありました。佐呂間漁業協同組合は翌22日に、常呂漁業協同組合では24日に操業船が下架され、佐呂間・常呂ともに27日に初漁となりました。どの漁業協同組合においても昨年同様の販売実績が望まれます。

第2湖口の閉塞



1月5・6日の低気圧の通過によって海が荒れ、北見市常呂町にあるサロマ湖第2湖口の水路が漂砂の堆積によって塞がりました。水路は、幅50メートル、水深5メートル、長さ435メートルで、湖内に海水を取り込む役割と漁船の航路として利用されています。閉塞は、昭和53年に通水して以来初めての事態で、漁船の航行が不可能になるばかりではなく、海水の流入が減少して湖内環境の悪化を招き、結果として養殖しているカキやホタテの成育にも影響する可能性があります。

そこで、北見市・佐呂間町・湧別町と管内の漁業協同組合で構成するサロマ湖開発期成会が、2月3・4日に北海道や国に対して漂砂の早期除去などの対策を求めました。この結果、2月6日より、北海道網走建設管理部がショベルカーなどで堆積した漂砂を除去する作業を開始し、幅10メートル、水深1メートルの水路を3月2日に確保しました。その後、国の災害認定を受けて、漁船の航行に必要な水深3.5メートルを確保するため、5万2千立方メートルの砂を6月末までに排出する予定です。



イベント情報

5月1日～6月上旬にチューリップフェア(湧別町)、5月下旬にはオホーツク「木」のフェスティバル(北見市)、6月10～11日はでっかいどうオホーツクマーチ(北見市)、6月24日にサロマ湖100kmウルトラマラソン(湧別町・佐呂間町・北見市)、7月7日はインターナショナルオホーツクサイクリング(湧別町・佐呂間町・北見市)が予定されています。



サロマ湖でつるぐアザラシ

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会
編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当
〒099-6404 湧別町栄町112番地の1
湧別町総合支所産業振興課水産係
Tel 01586-5-3763 Fax 01586-5-2283
Mail sangyo@town.yubetsu.lg.jp

2012.4.16

